

## 遊びを深めて楽しめるような援助の工夫 ～植物とのかかわりを遊びに取り入れていくことを通して～

南城市立佐敷幼稚園 教諭 東 恩 納 智 賀 子

### I テーマ設定の理由

**幼稚園教育の基本的な考え方**

遊びに取り  
入れる特性

本来、幼児は環境にかかわり興味や関心を抱いたものの中から、気づいたり、発見したことを遊びに取り入れ遊びを楽しくしようとする特性を持っている。

幼稚園教育要領の環境のねらいの中で、「身近な環境に自分からかかわり、発見を楽しんだり、考えたり、それを生活に取り入れようとする」と示されている。自然とのかかわりは好奇心や探求心が得られやすいので、旺盛な幼児期に身近な自然環境に十分にかかわり興味や関心を抱かせ、発見した事を友達と共感しあいながら遊びに取り入れて、遊びを深めていくことは大切となる。

**これまでの保育を振り返って**

幼児を取り  
巻く環境

本園の園児の生活環境は、両親が共働きで降園後は学童保育等に預けられる子が7割を占め、一日の大半を家庭外で過ごしている子が多い。

地域は畑が多いのにもかかわらず、図1の保護者のアンケート(4月)からわかるように、畑に行くことや農作物との関わりが少なく、家庭でも花壇との関わりもあまり見られないことがわかった。

転々とした  
遊び

又、幼稚園での遊びの様子を見ていると室内での遊びにおいては自分の教室や遊戯室、絵本の部屋と遊びの場を移り、一つの遊びに没頭して遊ぶことが少ない。園庭では数多く設置された固定遊具で遊ぶ幼児が多くブランコ・つり橋等次々に遊びを乗り換える傾向にあり、室内同様に遊びを深めて楽しむような姿があまり見られなかった。

教師の援助  
の甘さ

そのため、園では花や植物と関わりが持てる様にしようと計画的に環境を整えていったが、植物にはあまり興味を示さずに、園庭では固定遊具での遊びに走る傾向があった。教師も、植物の生長を楽しむ援助にとどまり、幼児の遊びにつなげて遊びを楽しめるような援助が不十分であった。

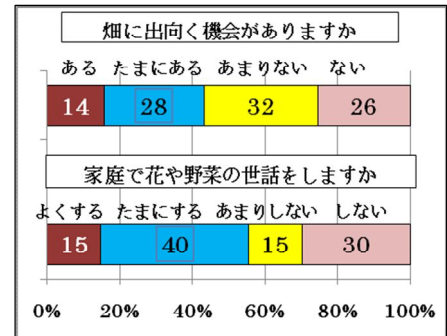


図1 幼児の実態(29人)

**本研究において**

遊びに取り  
入れる

そこで本研究では、感動体験が得やすい植物を育てる活動と、その中で体験した驚きや発見等を遊びに取り入れ遊びを深め楽しめるような援助の工夫を図る。

植物を育てる活動では、幼小連携として行われる2年生との朝顔を植える活動や、幼稚園での植物を育てる活動から、驚きや発見等の感動体験を友達と共有できる援助の工夫を図る。

遊びに取り入れる活動では、植物とのかかわりから幼児がイメージしたことを遊びに活かせるよう、話したり、描いたり、作ったり、試したりできる物的空間的環境構成の援助の工夫を図る。

植物を育てる事や遊びに取り入れた場面で、以上の援助の工夫をおこなえば、幼児が遊びを深めて楽しむことができるだろうと考え、本テーマを設定した。

## II 研究仮説と検証計画

### 1 研究仮説

植物を育てる事やそれを遊びに取り入れた場面で、次のような援助の工夫をおこなえば、遊びが深まり遊びの楽しさを味わうことができるであろう。

- (1) 植物を育てる場面(活動)において、驚きや発見等感動体験を友達と共有できるような援助の工夫を図る。
- (2) 植物とのかかわりからイメージした事を、話したり、描いたり、作ったり、試したりして遊びに取り入れて遊びを深められるよう援助の工夫を図る。

### 2 検証計画

事前調査で、幼児の植物との関わりをアンケートで把握する。それを基盤に検証授業保育を10回程度行う。植物との関わりからくる感動体験を大切に、そこから得た驚きや発見を、幼児の「こうしたい」とう願いが遊びに活かせるように援助し、幼児の遊びを深めるのに有効かどうかを授業実践後の教師の観察や、保護者の声やアンケートの変容で検証する。

①事前・事後の調査	事前(4月)事後(7月)の植物に関するアンケート(学級全保護者29人)		
②検証授業	検証の場面	検証の観点	検証の方法
	(1) 植物との関わり	・驚きや発見がみられたか	・教師の観察による変容を考察する。
	(2) あそびに取り入れる	・イメージした事を取り入れて遊びを深めて楽しむことができたか。	・保護者からの声や事前と事後のアンケートから考察する
幼児が遊びを深めることに有効であったか。			・幼児の活動を、①、②の結果から考察する。

## III 研究内容

### 1 遊びを深めることについて

#### (1) 遊びとは

##### ① 幼稚園教育要領から

幼稚園教育課程講習会資料によると、「幼児期における遊びは、生活の中で幼児が自ら興味や関心を持って周囲の人や物・事象などの身近な環境に対してかかわることによって活動を作り出し、展開すること全体を指している」と説明されている。

ここでは、遊びというのは、幼児が身近な環境に自分から、自分なりの方法で、自分の力で働きかけて作り出されるものであることが強調されている。

幼児が自ら興味や関心をもって主体的、意欲的にかかわり生まれた遊びが充実、発展するように援助するのが教師の役割である。

##### ② 子供にとって「遊び」とは

楽しく幼児が自発的に一番必要感を持って取り組む活動が遊びです。幼児は、遊びをより面白くしたり発展させようとして、挑戦したり、試したり、考えたり、作ったり、調べたりする。一般的な遊びの定義は、基本的条件として、・楽しく・強制されることが無く自由で・それ自身が目的で、他の目的的手段となっていない、などの事がある。

主体的、意欲的

遊びとは

げられる。しかし、目的や計画性のないところには教育は成立しないので幼稚園での遊びは、きちんとした目的で計画に基づいて組織的な遊びでなくてはならない

## (2) 遊びを深めて楽しむことの大切さ

遊びは、初め常設または設定されている場をそのまま使うことによって行われるが、しだいにその場を整えたり、そこに何かを付加したり、遊びの名前や目的に合わせて見立てたり、自分または友達と遊びの場を構成したりしてから遊ぶようになる。その意味で、遊び場を構成して遊ぶように育てることが遊びを楽しむために必要である。《遊び場を構成する段階》として

ひとり遊びだったのが、二人三人と仲間が増えていき、遊びの小グループができていく。「〇〇〇するにはどうしたらいいんだろう」とイメージをふくらませ思考錯誤しながら自分や友達のイメージに迫ろうとする。その過程には、工夫や修正が加えられていき、その中で、幼児は分析、比較、表現、工夫、創造といった能力をためこんでいくようになる。

そして、自分たちの遊びをもっと楽しくしようと役割分担をして、複雑なルールの制限の中で遊ぶことの面白さや、他人の発想や立場を知って、自分を抑えるという自己統制力などが自然に養われていく。

又、いろいろな活動に次から次へと目移りし取り組んでいくだけでは、多少の楽しさはあってもその場その日にとどまり、次への活動の意欲につなげることはできない。

それらのことから、一つの活動（あそび）に没頭して取り組むことが重要になってくる。幼児が、園生活を生き生きと過ごせるために、遊びの深まりは欠くことができないものである。

## (3) 援助について

遊びを深める教師の役割として、遊びこむことができなくなった幼児を、どのようにして、遊びこめるようにするかと考えた時、遊びは幼児の自発性に基づいて行われるべきであるという考えのもと幼児の発達を見極めないで、やりたいように好き勝手にさせることはただの放任と言わざるを得ない。

幼児が遊びを深めるようになるためには、教師の援助は必ず必要である。だが、幼児の発想を阻害して大人の考えるしくみの中に閉じ込めるようなものであってはならない。教師が、計画的に環境を構成し活動を生み出させて、それにかかわらせながら発達を促していく必要がある。

イメージをふくらませて

もっと楽しく

没頭する大切さ

計画的な環境の構成

## 2 植物とのかかわりについて

### (1) 植物にかかわる意義

幼稚園教育要領の身近な環境とのかかわりに関する領域「環境」のねらいで、「身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心をもつ」と述べられている。情報化が進展する中で、幼児は実際には見たことのない様々な出来事や事象などを容易に知ることができるようになり、このような間接体験によって多くの知識を獲得できるようになっている。

しかし、一方では、自然と触れ合い、その中で驚きや感動など心を揺り動かす体験をする機会は減少しつつある。植物は、芽を出し花を咲かせ、実をならせる。その生長過程や種子から出発して種子にかえる生命のサイクルは、幼児の感動や知的好奇心を刺激する。生長の変化の中で幼児を感動させ、それが興味、関心を育む。興味や関心をもったこと、不思議に思ったことは、自分から触れたり、試したり、扱ったりして積極的にかかわろうとする態度が養われる。

環境のねらい

生活に取り入れる

このようなことは、人間が生涯を通じて、何かに取り組む際の基盤となり、生活のあらゆる面に活かされることになる。

(2) 植物とのかかわりを遊びに取り入れていくことについて

幼稚園教育要領の環境のねらいの中で、「身近な環境にかかわり発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り入れようとする」と示されている。幼稚園では、生活そのものが遊びであるという考えのもと、遊びに取り入れようとする捉えることとした。

植物を育てる活動は、感動体験も多く得られやすく、それを遊びに取り入れることで、新たな発見を見出しやすいため遊びに深まりが出る。種をまいたり、水をかけたりという世話をするという生活の流れから、発見したことや、おどろきの感動を遊びに取り入れていくことは、新たに、好奇心、探究心を生み出し、遊びの深まりが得られやすい。

環境を整える

(3) 植物を育てる活動

幼児は、植物を育てることを通して、いろいろな自然事象に親しみ、興味や関心を持つようになり、植物とかかわるためには、園内の環境を整え、育てる活動を取り入れる必要がある。その中で、発見や、気づきの感動体験が得ることができる。表1は4月から9月までの当幼稚園の植物とのかかわりを意識し、遊びに活かした栽培計画である。

表1 遊びに活かす栽培計画 (4月～9月)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
菜 花	(前年度の園児が新入園児のために種まきをする) ●トウモロコシ → ◎親子で収穫し蒸して食べる(市学校公開日) → むいた皮を製作に利用 (トウモロコシを収穫した後に植える) ●ゴーヤー → ◎くじ引き大会(収穫し家に持ち帰る) → ヒラヤーチ会に使って食べる ●二十日ネギ → ◎ラッピングして持ち帰る(母の日のプレゼント) ◎冷ソーメン会に使う ●オクラ → ◎湯がいて冷やして食べよう → 型押し遊び (ネバネバ野菜を味わう)					
壇 園	(小学校2年生との朝顔を植えようの会) ●朝顔 → ◎花を遊びに取り入れる(色水にしたり染めたりする) ●ひまわり → ◎せいくらべをしよう → ◎種とり (でっかくなるかなーの期待をして)(自分よりも高くなることを感じて) ●松葉ボタン → ◎遊びに取り入れる(色水や染めたりして)					

育みたい  
態度

(4) 植物とのかかわりを通してはぐくみたい態度

教師と幼児、また、幼児同士協力しあったり、喜び合ったりと感動が多くある。植物とのかかわりを通して育みたい態度を次のように捉えた。

- 幼稚園にはいろいろな場所があることを知り、花壇や菜園にも関心を持つようになる。
- 植物の生長を見守り、友達と協力しあう楽しさを味わうようになる。
- 植物を育てることで、個々の幼児の発見や気づきを、友達や教師に伝えたいという思いから、会話が生まれるようになる。
- 日々の変化を調べたいという探究心を味わうようになる。
- 植物を通して命あるものを大切に、生命を尊重することの大切さを知るようになる。

(5) 植物を育てる活動で予想される幼児の姿と教師の援助

種や苗植えから収穫までを、教師と一緒に世話をしたり、友達とかかわり、花や野菜が育つ様子を観察し感動する体験を共有することで、植物の生長に興味や関心が深まり、感謝の気持ちを持つようになる。当園の植物とかかわる活動の中での予想される幼児の姿と援助を表2のようにまとめた。

表2 予想される幼児の姿と教師の援助

	花や野菜の種類と活動	予想される幼児の姿	教師の援助
4月	トウモロコシの水やり	<ul style="list-style-type: none"> <li>「1年生のお兄ちゃんお姉ちゃんが種まきしたんだって」</li> <li>「お家で食べたことあるよー」</li> <li>「はっばが草みたい」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分たちのために種蒔いてくれたことに感謝して収穫を楽しみに世話をすることができる。</li> <li>雄穂、雌穂の出方のおもしろさや、受粉の仕組みを知ろうとする態度を大切にする。</li> </ul>
	小学校2年生との「あさがおを植えようの会」に参加する	<ul style="list-style-type: none"> <li>「おにいちゃんおしえてね」</li> <li>「穴はもっとあけるの」</li> <li>「毎日、水かけしないとイケないんだよー」</li> <li>「わー葉っぱがおおきくなっているよ」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>入園間もない中なので、小学校2年生の力をかりて自分の鉢に小さな種を大切に植えることができるよう見守る。</li> <li>小さな種や苗にも命があることに気付かせる。</li> </ul>
	二十日ネギを植えよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>「お母さん、喜ぶかなー」</li> <li>「おそばに使うはずよー」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>母の日の持ち帰りようプレゼントに使える喜びを持って期待して世話をすることができるようにする。</li> </ul>
	夏野菜ゴーヤーを植えよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ゴーヤー苦いからきらい」</li> <li>「僕へいきだよー」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ビタミンいっぱいであることを知らせ、興味を示すよう話題にする。</li> </ul>
5月	ヒマワリを植えよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>「水をかけないとかれるよー」</li> <li>「朝きたら自分でやらんとねー」</li> <li>「大きくなっている」特に週明けの変化の驚きの声</li> <li>「私より大きくなるかなー」と期待する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>水やりを忘れるとどうなるかなーと世話をすることの大切さに気付かせる。</li> <li>友達とかかわりを持ち、世話をすることの喜びを味わわせるようにする。</li> </ul>
6月	地域の畑見学 夏野菜を植えよう 松葉ボタンを植えよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>「どんな野菜があるかなー」</li> <li>「みんなで行くの楽しみだなー」</li> <li>「僕たちのも大きくなるかな」</li> <li>「はっばがおもしろいね」</li> <li>「きれいな色がさくといいな」</li> <li>「ケーキやさんでつかいたいなー」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の畑を見学することで、いろいろな野菜に興味を持ち、園の畑にも自分たちの力で植え付け、世話をして育てたいという気持ちを持つようにする。</li> <li>花からイメージして思いを巡らして世話をすることを喜ぶ。</li> </ul>
7月	植物と遊ぼう ・色水作り（染め） ・葉っぱ遊び ・オクラの実でスタンプ遊び	<ul style="list-style-type: none"> <li>「赤い朝顔の花は赤い色ができるんだねー」</li> <li>「モモタマナの葉っぱは大きいからおもしろいのがつくれるよ」</li> <li>「オクラの実でこんな可愛いのができるんだね」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>色々な素材や用具をそろえて、幼児が遊びこめるような環境を大切にする。</li> <li>個々のイメージを読み取り、全体に広がるような言葉がけを心がける。</li> </ul>

遊びを深める援助

(6) 植物とかかわりながら友達と遊びを深める援助

- ① 朝の集いや帰りの集いの活用
  - 物から個々が発見したことや気づきなど、自分のイメージや思いを、動きや言葉で表せるように働きかける。その思いが周囲の幼児に受け入れられるという安心感や言葉で表しやすい雰囲気を作る。
- ② 自主活動の中で・・・・・・・・・・
  - 幼児が教師に承認を求めて働きかけてくる時、それを個々に受け止めるだけでなく周囲にいる幼児にも返すように働きかける。又、遊びに利用できそうな植物を一緒に見つけ思いを共有することで、イメージがふくらむようにする。
  - 遊びたい友達と同じ物を持ったり、身につけたりするように働きかける。「(「すてきな花のネックレスだね」)。
  - 友達とかたまって遊んでいる個々の動きを教師がつぶやくことで、周囲の幼児が何をしているかに気づかせ、つなげるように働きかける。「(「きれいな色のジュースができたね。おいしそう」)。
  - 友達の間にもみられる力関係を調節するように働きかける。(個々が自分のおもいを引き出せるようにする)。
  - イメージを実現する遊具、材料、素材など提示し実現する方法を教えたりする働きかけをする。

IV 授業実践

1 活動名 植物を使って遊ぼう

2 活動設定の理由

- (1) 教材観 (省略)
- (2) 幼児観 (省略)
- (3) 指導観 (省略)

3 授業目標

友達とイメージを出し合い、個々の発想を活かしながら考えたり、試したりと工夫をして遊びを深めて楽しむ。

4 検証指導計画



月日	活動名	ねらい	幼児の活動	環境構成・援助の工夫	検証内容 検証方法
① 4/25	・あさがおの種を 植えよう	・小学生に手伝ってもらいながら朝顔の種まきを楽しむ。	・個人用鉢に二年生と朝顔植えをする。	・二年生の手順をよく見る。(ほったり、植えたり) ・世話をしてもらうことに感謝することができるようにする。	仮説(1) 観察・記録
② 6/12	・夏の花 松葉ボタンを植えよう	・夏に強い花を知り、咲くのを楽しみにすることができる。	・苗を傷つけることがないように、大切に植えつける。	・いろいろな色があることがわかり、咲く時を楽しみに期待を持って植えることができるようにする。	仮説(1) 観察・記録
③ 6/12	・地域の野菜畑見学 (市川さんの畑)	・いろいろな野菜に、興味・関心を持つことができる。	・園の畑と比べてみよう。 ・どんなものが植えてあるのかな。	・畑の大きさや、植えられている植物に対して、「何だろう」と思う気持ちを持つことができ、知ろうとする意欲を大切にす。	仮説(1) 観察・記録




月日	活動名	ねらい	幼児の活動	環境構成・援助の工夫	検証内容 検証方法
④ 6/13	・畑に夏野菜を植えよう	・身近な野菜に興味を持ち野菜の苗植えをする。 ・友達と苗を植える楽しさを味わう。	・傷つかないように丁寧に植える。 ・「大きな実がつくかな」と期待を持ちながら苗植えをする。	・間隔をあけて植える必要性を知らせる。(大きく生長するという期待感を持つことができる)	仮説(1) 観察・記録
⑤ 6/17	・花や野菜の世話をしよう	・小さな変化に気づき、友達と発見しあう喜びを味わう。	・花壇や畑の探検を楽しむ。	・意識して、植物とかかわることで、生長の変化に気づくことができるようにし、友達との共感を楽しむことができるようにする。	仮説(1) 観察・記録
⑥ 6/19	・モモタマナの葉っぱであそぼう	・モモタマナの葉っぱを使って遊びを楽しむ。	・モモタマナの葉っぱを使って工夫して遊ぶ。	・個々の思いが出せるようにすると共に、アイデアが活かせるよう共感する雰囲気大切に作る。	仮説(2) 観察・記録
⑦ 6/24	・草花をつかってあそぼう	・園庭にある草花を知り、遊びにとりいれる。	・草花を使っているいろいろな遊びをする。 (摘んでいい場から)	・アイデアを活かせるように要求に応じた用具の提供できるようにする	仮説(2) 観察・記録
⑧ 6/30	・植物であそぼう ・色水作り ・葉っぱを使ってあそぼう	・発見したことが活かせるように、考えたり、試したりすることを楽しむ。	・園庭の摘んでいい植物を遊びに取り入れ考えたり、試したりして遊ぶ。	・遊びの流れを考慮して、個々の思いが発揮できるようにすると共に、全体で共有できるような働きかけをする。(全体把握)	仮説(2) 観察・記録
⑨ 7/1	<b>検証授業本時</b> ・植物を使って遊ぼう	・園庭にある植物を使って友達とイメージを出し合いながら遊びを深めて楽しむ。	・花や葉っぱや野菜の実を使って遊ぶ。考えたり、試したりして遊ぶ。	・遊びの流れを考慮して、個々の思いが発揮できるようにすると共に、全体で共有できるような働きかけをする。(全体把握)	仮説(2) 観察・記録
⑩ 7/8	・植物を使って遊ぼう	・植物を使って遊んだことを絵で表現することを楽しむ。	・花や葉っぱや野菜の実を使って遊ぶ。考えたり、試したりして遊ぶ。	・前回の本時で、十分に自分の思いを出せなかった幼児に寄り添い、一人一人の植物との関わりを把握し遊びが深まるようにする。	仮説(2) 観察・記録

## 5 授業の仮説

植物を使って描いたり作ったり、考えたり試したりできるような、物的空間的環境構成を行い、友達とイメージを伝えあえる援助の工夫をすれば、遊びを深めて楽しむことができるであろう。

## 6 授業の展開

幼児の姿	<p>幼児は登園後、ベランダの朝顔の散水をしながら「ぼくの、青色が咲いてる」「私は白色が咲いてるよ～」と開花を喜ぶ声が多くなった。登園の遅い幼児は、散水を忘れることが見られるが早く来た幼児が友達の分もかけてあげるといふ気遣いも見られる。</p> <p>又、保育所で花を使って色水を作ったことのある幼児2～3人の摘んで遊びに使う姿も出始め、先日の検証⑦の「草花を使って遊ぼう」の中で、花の色から綺麗な色作りができることを発見し喜ぶ姿がみられる。</p> <p>さらに、検証③の地域の畑見学での感動から、園の畑に検証④で植えたオクラが実をたくさん付けるようになり収穫を逃して、大きくなりすぎたオクラをどうしようかと投げかけ、先行経験のある幼児の声をうまく活用して、本時の「オクラの実であそぶ」が取り上げられた。</p> <p>このように、検証⑥の「モモタマナの葉っぱで遊ぼう」をきっかけに園庭にある植物を遊びに使うことに興味や関心が増してきている。</p>
------	--

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>植物を使って友達とイメージを伝え合いながら、遊びを深めて楽しむ。</li> </ul>	内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>花や葉っぱや実を使って発見したり，考えたりしたことを取り入れて遊ぶ。</li> <li>イメージしたことを，友達や教師に伝え楽しく遊ぶ。</li> </ul>
時間	幼児の活動	◎環境構成	★援助の工夫
9:20	<ul style="list-style-type: none"> <li>色水で遊ぶ。 (朝顔・松葉ボタン・オシロイ花を摘む) (色水を作る) (作った色水を使って遊ぶ)</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>葉っぱで遊ぶ。 (モモタマナ・車輪梅の葉っぱをとる) (いろいろに見立てをして変身する) (作ったもので遊ぶ)</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>オクラの実であそぶ。 (大きくなりすぎた実を収穫する) (スタンプ遊びをする)</li> </ul> 		<ul style="list-style-type: none"> <li>★必要な分の，花や葉っぱを摘み取ることができるよう知らせる。</li> <li>★はさみを使う場面では，扱いに気をつけさせる。</li> <li>★出てきた色への感動に共感したり幼児のつぶやきを拾い周りの幼児に知らせる。</li> <li>★試したり，工夫したりする場面を認めてほめる。</li> <li>★個々のイメージが具体化していけるよう言葉がけをしていく。</li> <li>★イメージが友達や教師に伝えあえるよう，仲立ちし友達と一緒に遊びが持続できるようにする。</li> <li>★困難な場面や目的に向かって考えたり試したりしている幼児を認めてあげながら，遊びが深まるようにする。</li> <li>★食用にできなくなった実を使っての遊びを知ることができるようにする。幼児から出た遊びの発想を取り入れる。</li> </ul> <p>◎葉っぱや色だしをした花等が片付けしやすいようなかごを用意する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★次の活動を知らせたり，教師が片付けのお手本を示したりしてスムーズに片付けができるようにする。</li> </ul>
9:50	<ul style="list-style-type: none"> <li>片付けをする。</li> <li>・所定の場所に片付ける。</li> </ul>		◎木陰を利用して，全員がくつろげるような雰囲気をつくる。
10:05	<ul style="list-style-type: none"> <li>お話をする。</li> <li>・みんなに知らせたいこと</li> </ul>		★遊びの中で，感じたことや考えたこと，発見したこと等をみんなに話すことで，遊びの状況が全員で把握できるようにし，次の活動への意欲につなぐ。



## 7 授業仮説の検証

授業仮説について、観察者から見た評価と教師の実践記録・保護者の声から学級全体の評価を考察する。観察者は授業者以外の9人で行った。

### (1) 植物を使って遊びを深めて楽しむことができたか

表3 観察者から見た教師の援助の工夫と幼児の活動における評価

場面	観点 A良い Bおおむね良い C良くない	幼児の様子 (観察者の記録より)
色水で遊ぶ 葉っぱで遊ぶ	◎援助の工夫 ・描いたり、作ったり、試したり空間的環境構成(素材や用具の配置、遊び場所設定)はどうであったか。 ・個々のイメージが具体化し、友達とイメージを伝えあえることができるような、言葉かけはどうであったか。	A ・子供たちが遊び込めるような、容器や道具・材料が整い遊びに、集中できるような環境であった。 ・木陰を利用して、開放感や涼しさを与えた場の設定であった。 B ・「すごい」「できた」等の、幼児の声に耳を傾けて寄り添いイメージが具体化出来るようにしていた。 ・集まりやすいように手遊びをして集まりたくなる雰囲気を出していた。 ・話し合いの時間が長かったのではないか。
	◎遊びを深め、遊んでいたか ・イメージを出し合っている ・物を取り入れ工夫して遊んでいるか ・一つの遊びに没頭しているか。	A ・色の濃さや薄さを調節したり、量感を知らうと話し合っている。 ・オクラの種を、イクラにみだてたり葉っぱの裏表を使い分けたりと工夫が見られた。 ・友達に教えてあげたり、できたお寿司を売りに行ったりとゲストや周りとの関わりも見られた。 B ・いろいろの色を使ってオクラの星型の形を喜び型押しを楽しんでいる。切り方を工夫すると又おもしろさがでるのでは。 ・ゲストとの関わりもみられた。出来たものをゲストに見せたりと誇らしげであった。
オクラで遊ぶ 話し合う場面	◎楽しく遊んでいたか ・友達や先生、ゲストに自分の遊びについて進んで話しているか ・集まりの話し合いの時に、生き生きと自分の思いを伝えているか。	

教師の評価

表3より教師の援助の評価は、描いたり、作ったり、試したりする環境構成の工夫がA、イメージが具体化できたり、伝え合ったりできる援助の工夫がBであった。観察者の記録として、集中できる環境であったことや、開放感あふれる涼しい場の設定であったとある。

観察者の記録

又、教師は授業後、「今まで、固定遊具で遊ぶ場だけになっていたモモタマの木陰を、空間的環境と意識したことでうまく遊びが広がった。さらに、それぞれの遊びの場が見通せたことで個に応じた声かけやすかった。こともあり、遊びこんでいる幼児が多かった。」と読み取った。

教師の読み取り

資料1の保護者の感想にも教師が個に寄り添って援助していたことが記されていた。  
資料2では、遊びのイメージがつかめないでいる幼児への個に添った援助が表れている場面である。

これらのことから、教師の

朝顔の色水遊びが、とても楽しい様子。  
話を聞くと、「皆さんは、ピクニック朝顔で、色水作ってみたいね。これは、枯れた茶色の花では、とりほひのあとと見て、思いついたら、茶色の水ができて、不思議だね。みんな違う色だね。先生、不思議だね。と、満足気な顔だね。」

資料1 保護者の感想

学級全体の評価

観察者の記録

教師の読み取り

保護者の感想

援助の工夫における評価は良いと捉える。

表3より学級全体の評価は、遊びを深めていたがA, 楽しく遊んでいたかがBであった。観察者の記録として、色の濃さや薄さを調節する工夫やためしが遊びの中で見られていた事や、ゲストに出来上がったものを誇らしげに見せていたとある。

又、教師は授業後、「それぞれの遊びの場で同じ植物を使ってアイデアを出し合い、イメージを共有して遊びを深め楽しんでいた」と読み取った。

資料3の保護者から寄せられた声からも、「大きくて食べれなくなったオクラの実で、スタンプにしたことがよっぽど気に入ったらしく『オクラでお花の絵を描いたんだ〜』と、とても嬉しそうに自慢していました」と、園で植物と関わったときの様子を生き生きと家族に伝えているのが伺えた。

そのことから、「ほぼ全員が植物を使って遊びを楽しむことができた」と捉える。



資料2 個に寄り添った援助

オクラを使ったスタンプの事を嬉しそうに話します。  
 普段から好物のオクラを口にはなく、大きな食べれないオクラを半分切ったスタンプにして、よっぽど気に入らしく「オクラでお花の絵が書けた♪」ととても嬉しそうに自慢していました。


資料3 保護者の感想


## V 研究の結果と考察

研究の考察は、植物との関わりの場面と遊びに取り入れる場面から、教師の観察と保護者への事前(4月)と事後(7月)のアンケートによる学級全体の幼児の遊びの深まりで行う。

### 1 地域の畑を見学したり、園の花壇や畑に植物を植えて関わることは、驚きや発見等の感動体験を得るのに有効であったか。

表5 観察による幼児の変容と教師の読み取り

検証回数	幼児の発見や驚きの言葉・姿	教師の読み取り
①	「小学生のお兄ちゃんはよくわかるんだね」 「お兄ちゃんがいっぱい土入れないとダメなんだって」 「種ってとても小さいんだね」	・小学生がよく学んだことを教えてもらうことに信頼できている。
②	「僕、知っているよ。こうするんだよ。苗ポットを指でおしてから」 お祖母ちゃんのお家でやったことがあるから分かるんだよ」 「ほんとだねー上手にできるねー」と友達に褒められる。	・友達への苗の扱い方に感心すると共に、じっとやり方をみている ・自分も上手に植えることができるように頑張ろうとする。
③	「でっかいなーこのきゅうり。剣みたい」 「赤ちゃんゴーヤーができていよ」 「へー、これモーウイっていうんだ」 「モーウイは緑色がだんだん茶色に変わるんだ」 「ばあちゃんの家でモーウイを食べたことがあるよ」	 ・目を輝かせて、畑の中を走りまわり声に出して感動を声に出している。 ・植物に対しての知識を再確認したり新たに学ぼうとする意欲が見られた。

検証回数	幼児の発見や驚きの言葉・姿	教師の読み取り
④	<p>「市川さんの畑みたいにしたいなー」  「いろいろなもの植えたいなー」  「オクラの葉っぱはチクチクしているね」  「ちゃんと実ができるかなー」  「水かけ頑張ろう」</p> 	<p>・前日の感動体験が活かされ、今回は自分達の畑に植える活動とあって期待も大きいようである</p>
⑤	<p>「朝顔どこにいこうかなーって困っているねー迷子みたい。直してあげるね。」つるがのびたのを心配し、支柱にていねいにまきつける。  「ピーマン折れているみたい。だいじょうぶかなー」と支柱を立ててあげる。</p>	<p>・しっかり観察し、つるのひらひらたれたのや、茎の折れたのを心配する細やかな目を向けることができるようになった</p>

言葉の変容

表5は、検証①～⑤の教師の観察による幼児の変容と考察である。活動が増えるにつれて幼児の発する驚きや発見の言葉から下記のような植物への興味や関心の変容が見られた。  
植物への興味や関心の芽生え→ 感じたことを言葉で表現する→生活経験を取り入れる  
→物に見立てて楽しむ → 体験から抱く目標 → 目標へ向かう意欲 → 観察の深まりから来る次への対応。

大きな変容

図2は、保護者のアンケートの結果から、家庭での花や野菜の水かけなどの世話の様子を尋ねたものである。その結果、世話をする幼児が事前(4月)では55%だったのが事後(7月)では96%と変わり大きな変容が見られた。園で、植物との関わりを多く持つことで、家庭における花や野菜への水かけの様子に大きな違いが出て、幼児の関心が高くなったことがわかる。

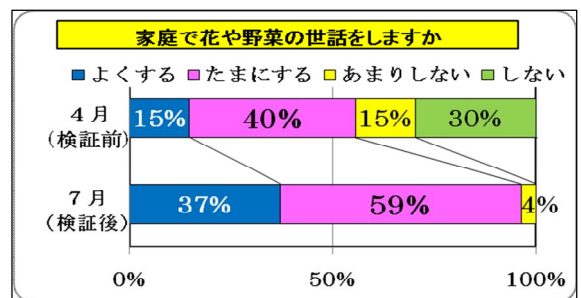


図2 花や野菜への興味や関心(29人)

見学の効果

資料4は、地域の畑見学後に寄せられた保護者の声(抜粋)である。興奮気味に畑見学の驚きや発見したことを細かに話したことがよく表されている。  
以上のことから、地域の畑を見学したり、園の花壇や畑に植物を植えて関わることは、驚きや発見等の感動体験を得るのに有効であったと考える。

感想 お母さん畑は遠くにあつたけど、○○張又歩いたよ! 楽しかったの  
スッポウもゴーヤもモウズもあつたんだよ、アヒルもいてカエルのたまりもあつ  
○○さつたんだよ? 土の階段もあつて、野菜もいっぱいあつてもう名前  
覚えられない...と興奮気味に話してくれました、お弁当の時に雨に降つた  
事もニコニコ顔で報告していました、子供達にとっては大雨のハイキングも楽しい  
思い出に降つたのでしょ。お父さんもお母さんも畑に案内してあげると  
張り切っていました、友達と一緒に畑でマユセの事かとても楽しかった  
ようじす。畑での体験を園での料理作り、畑作りにつよつているところは素晴らしい  
思い出です。貴重な経験がたつたようでした。



資料4 地域の畑見学後に寄せられた保護者の声

2 植物とのかかわりからイメージした事を、話したり、描いたり、作ったり、試したりして遊びに取り入れることは、遊びを深めて楽しめるようになるために有効であったか。

表6 観察による幼児の変容と教師の読み取り

活動名 参加した幼児	イメージした内容・姿	教師の読み取り
検証⑥ モモタマナの 葉っぱで遊ぼう 19人(29人中)	「大きな葉っぱだねー」と摘んだ葉っぱを見て、びっくりする。「何ができるかなー」と意欲的である。 「お面つくりたいな」「何が必要かな」	○お面を作ったことから、園庭を走り回り声を張り上げながら鬼ごっこを楽しんでいる。
検証⑦ 草花を使って遊ぼう 21人(29人中)	「松葉ボタンの花はまだ小さいよ」「畑の所にオシロイ花があるからやろう」「ケーキ作って上にかざろうかな」	○まだまだ色水にできる量ではないのを幼児と話し合う。砂場でのケーキの飾り用として草花を利用する
検証⑧ 植物で遊ぼう 29人(29人中)	「ジュース屋さんしたい」「透明で綺麗にみえる」「お家から持ってきたよ」	○遊びがより楽しめるようにイメージの共有化を図る。色々な容器や道具が集まり、遊びに没頭する幼児が多かった。
検証⑨ 本時 植物で遊ぼう 28人(欠席1人)	「早く昨日みたいに園庭で遊ぼう」「葉っぱのお寿司屋さんで頑張っていっぱい作ぞ」「できたお寿司を売りにいこうかな」「しゃきしゃきいい音 カキ氷みたい」「お花がいっぱい咲いたみたいでかわいい絵になったよ」	○前日の遊びの続きをしたいという思いで登園した子が多く、イメージもそれぞれの遊びの中で、一つになり、「遊びこんでいるな」と感じる事ができた。 ○「食べますか どうぞ」「おいしいですよ」の声掛けをゲストに笑顔で投げかけている姿から満足感を感じた。
検証⑩ 植物で遊ぼう 11人(29人中)	「こんなきれいな模様ができたよ。花火みたい。ぼくのがきれいだろう」「お手紙が書けるようにはしっこだけにおすね」「真ん中に絵も描こうね」	○参加した幼児が11人となった。・・が朝顔染めやオクラの型押しに参加した子は前回より工夫が見られ遊びの深まりを楽しんだのではと感じた。

言葉の変容

表6は、検証⑥～⑩の観察による幼児の変容と考察である。遊びの中に植物を取り入れる活動が増えるにつれて、下記のような遊びを深める姿に変容が見られた。

一人一人が植物からイメージして素直に表現して楽しむ → 周りの友達の発する言葉、に共感しイメージの共有化を図る → 友達と見立てをし、同じ目的に向かって役割を決め遊びを深めて楽しむ→さらに上手にできるように工夫する。

参加人数の割合

参加した幼児に図3のような変容が見られた。参加した幼児が⑥⑦と徐々に増え⑧⑨では全員参加するという結果となっている。ただし、検証⑩の時は、行事や園庭のセミが増えて他の遊びに(セミとり)興味や関心が移り参加者が落ち込んだものと考えられる。

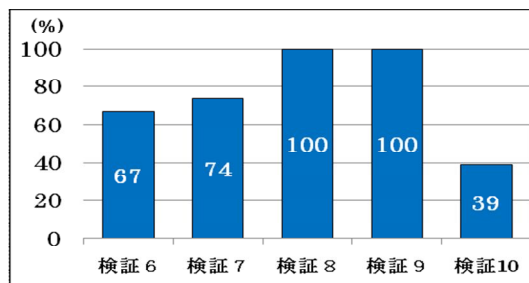


図3 遊びに参加した割合(29人)

家庭で話す  
が100%

図4は、保護者のアンケートの結果から、植物を使つての遊びを知ったことを家族に話したかを尋ねたものである。その結果、家庭で話す幼児が(4月)では30%だったのが事後(7月)では100%を占めて大きな変容が見られた。そのことから、園で植物を取り入れて遊んだことが家族に話なくなる程、楽

家庭との連続性

しめていることが伺える。

資料5は、植物で遊ぼうを終えた後に寄せられた保護者の声(抜粋)である。家庭でも朝顔が咲いたら色水づくりをやるんだと張り切っている姿が生き生きと表されている。

以上の事から、植物とのかかわりからイメージした事を、話したり、描いたり、作ったり試したりして遊びに取り入れることは、遊びを深めて楽しめるようになるために有効であったと考える。

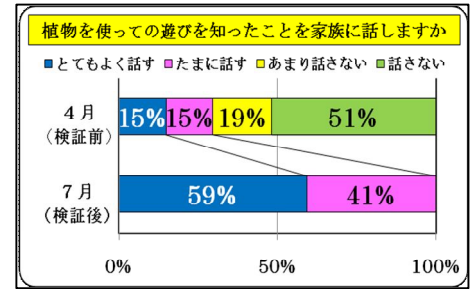


図4 家族に話したか(29人)

「葉っぱをのりで見立てておすしを作った事を話していました。  
「はっぱをフルックフルックとまいてすしづくにヨ」  
朝顔の花を使ってしるべ模様をつくった話を話していました。  
作り方もこまかく説明してくれました。  
家で咲いている朝顔は手に花をつけていはいのですが  
花が咲いたら家でも作るんだと張り切っています。」

資料5 植物で遊ぼうを終えた後、寄せられた保護者の声

3 植物との関わりを遊びに取り入れられるよう援助したことは、遊びを深めて楽しめることに有効であったか。

植物とかかわる体験が少なかった幼児に、教師が植物とかかわりを持たせたいという願いのもとに、意図的、計画的環境構成を行ったことで、地域の畑見学や園庭での朝顔・オクラ植え、水やりで世話をするという活動を生み出した。その活動を通し幼児が驚きや発見・不思議さ等感動体験を味わうことができた。

イメージの共有化

又、発見や感動したことを遊びに取り入れられるよう援助していった事は同じ事をする友達と共通の経験や感動を言葉や行動で伝え合いイメージが重なって共有化が図られた。同じ目的に向かって考えたり、試したりして遊ぶようになった。そこには、新たに友達に加わり発想を広げて遊びが展開していく。そのように、遊ぶ幼児の姿そのものが、遊びを深めて楽しんでいる姿だと捉えた。

よって、植物とのかかわりを遊びに取り入れていくことは、遊びを深めて楽しむことに有効であったと考える。

VI 研究の成果と今後の課題

本研究では、植物とかかわりながらそれを遊びに取り入れることを通して、遊びが深まり楽しめる援助の工夫を行ってきた。その結果から、次のような成果と課題を得ることができた。

1 研究の成果

- (1) 植物に興味や関心が持てるよう、地域の畑見学を取り入れたことで、大きな野菜の果の発見やお土産の野菜を食べた喜びから、自分たちの園の畑に植えた野菜や、花壇の花への世話も主体的に行うようになり意欲的にかかわるようになった。(V-1)
- (2) 教師が仲立ちし友達とのイメージの共有化を図れるよう援助することで、一つの遊びに向かうことができた。その過程の中で友達と一緒に、考えたり、試したり工夫しながら遊びを深めて楽しめるようになった。(V-2)
- (3) 植物とのかかわりで、体験したことを遊びに取り入れ、楽しかったことを家庭でも話題にしている様子から、幼児の興味や関心の高まりは、保護者にも伝わり保護者の喜ぶ様子から幼児の喜びも増すという相互作用の中で、次も更に遊びを深めて楽しむようになった。

## 2 今後の課題

園の自然環境に目を向け、身近な植物を観賞するだけにとどまらずに、遊びに積極的に取り入れることができるよう、年間計画に織り込んだ見直しを図る。Ⅲ-2-(3)

### <主な参考文献>

文部省	『幼稚園教育要領解説』	フレーベル館	2003年
森上史朗	『幼児理解と保育内容』	ひかりの国	
西久保 礼造	『幼児の遊びを育てる』	ぎょうせい	1994年
石倉卓子著	『自然と遊ぼう!感じる力を育む保育環境』	明治図書	2008年
河邊貴子	『遊びを中心とした保育』	萌文書林	2005年
	『幼稚園教育要領』	文部科学省	2008年

